

教育研究環境の充実について

目次

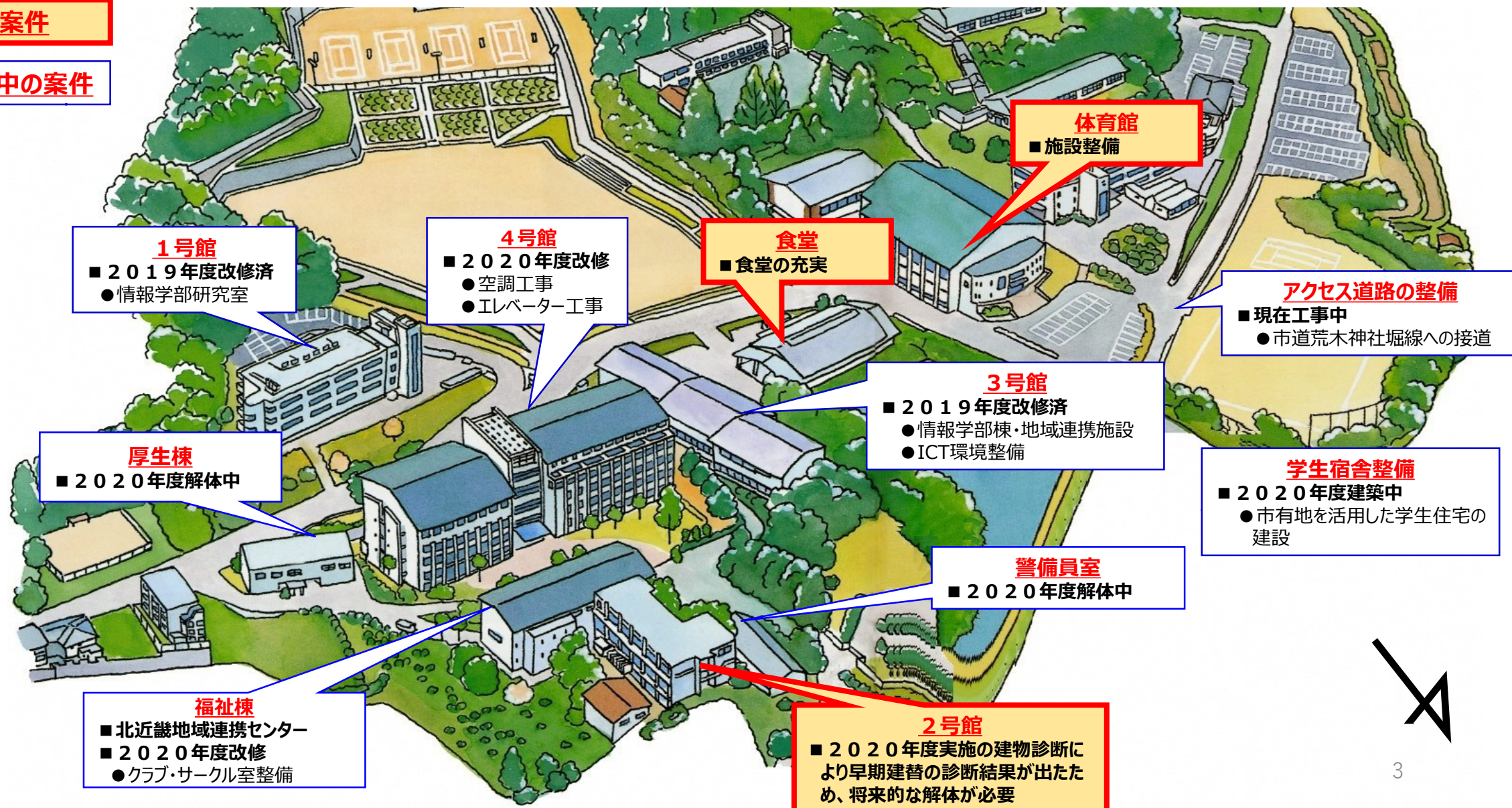
- 1 これまでの施設整備**
- 2 大学院の設置等にかかるキャンパス整備の必要性**
- 3 施設整備の優先順位の検討**

1-1 これまでの施設整備

「知の拠点」整備構想で示したキャンパス整備の進捗状況

未実施の案件

実施済・実施中の案件



キャンパス整備費用試算(投資的経費)

出典:「知の拠点」整備構想(H29)

(単位:百万円)

項目			全体 事業費	短期			中期			長期			
				平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度
				1,112			—			—			
① 教育 研究 施設	1号館	新学部校舎として整備 設計・改修工事	378	19	359								
	3号館	新学部校舎等として整備 取得・設計・改修工事	379	132	247								
	4号館	既存学部校舎の整備	324		324								
	学生活動施設	クラブ・サークル室設置	31		31								
	合計①		1,112	151	606	355							
② 福利 厚生 施設	体育館・駐車場	0	当面、既存施設や空きス ペース等の有効活用により 機能を確認			福知山公立大学が主体となって整備時期・手法等を検討							
	2号館・福祉棟	0											
	食堂	0											
	厚生棟・警備員室	0											
	学生宿舎	0											
	合計②		0	0	0	0							
総合計(①+②)			1,112	151	606	355							
財源 内訳	国府補助金	50		50	0								
	市債(合併特例債)	1,009	143	529	337								
	その他(基金)	53	8	27	18								
	一般財源	0	0	0	0								

※事業推進にあたっては地方創生関連交付金をはじめ国等補助金の一層の確保を図り、市債発行額の抑制に努める。

1-2 これまでの施設整備

長寿命化計画策定にあたっての建物診断結果 (R2)

厚生棟

■改修ではなく建て替えが望まれる

建築からすでに43年が経過しており、屋根及び外部の鉄骨階段が腐食等により限界に達していることから、今後耐震改修を行ったとしても改修工事に対する費用対効果は生まれない。

↓
2020年度解体中

2号館

■改修ではなく建て替えが望まれる

旧耐震基準で設計された建物で、建築からすでに53年が経過していることから、今後耐震改修を行ったとしても改修工事に対する費用対効果は生まれない。

↓
早期の解体及び活用方法の検討が必要

旧警備員室

今回の建物診断の対象とはなっていないが、建築年数が不明の木造建築物で老朽化が激しく現在使用不可の状態である。

↓
2020年度解体中

現在の大学施設の面積

施設名称	延床面積 (㎡)	使用可能 (㎡)	構造	備考
1号館	2,411	2,411	鉄筋コンクリート造 5 階建	
2号館	1,119		鉄骨鉄筋コンクリート造 3 階建	使用不可
3号館	1,756	1,756	鉄骨造2階建	
4号館	6,471	6,471	鉄筋コンクリート造5階建	
厚生棟	480		鉄骨造2階建	解体中
福祉棟	1,123	1,123	鉄筋コンクリート造2階建	
食堂	634	634	鉄骨造1階建	
警備員室	162		木造1階建	解体中
合計	14,156	12,395		

●現状施設（2020年度）

用途	部屋数	延床面積（共用部分を除く）
教室等（含1・3・4号館）	34室	3,289㎡
教員研究室（含共同研究室）	51室	1,165㎡
会議室	2室	135㎡
合 計	87室	4,589㎡

2-1 大学院の設置等にかかるキャンパス整備の必要性

(1) 大学院設置における施設整備

大学院設置における施設整備の必要性

- ・大学院の設置には、大学院設置基準第19条に基づき、専用の講義室、研究室、実験・実習室、演習室等の整備が必要となる。
- ・現在計画中の大学院「（仮称）地域情報学研究科」は、定員20名程度の実践に重点を置いた教育研究に取り組む。
- ・加えて大学で設置を検討している数理・データサイエンスセンター、FabLab（ファブラボ）、地域防災研究センターなど多様な研究機能の充実により、地域の企業との連携による共同研究や受託事業に必要な共用スペースや研究活動スペースの整備が求められ、教職員・学生の増加により会議室・事務室の整備が必要となる。
- ・「知の拠点」整備構想において耐震工事等により活用を想定していた2号館が、建物診断調査の結果使用不可となったため別途整備が必要となる。

大学院における施設整備概要

用途	部屋数	想定される延床面積※
大学院の講義室	4～8室	60㎡/室
学生・院生の研究室	6～8室	60㎡/室
教員研究室	4～6室	30㎡/室
実験室	4～6室	60㎡/室
共用利用・貸出研究室	2～4室	60㎡/室

2-2 大学院の設置等にかかるキャンパス整備の必要性

(2) 学部における施設整備概要

学部における施設整備の必要性

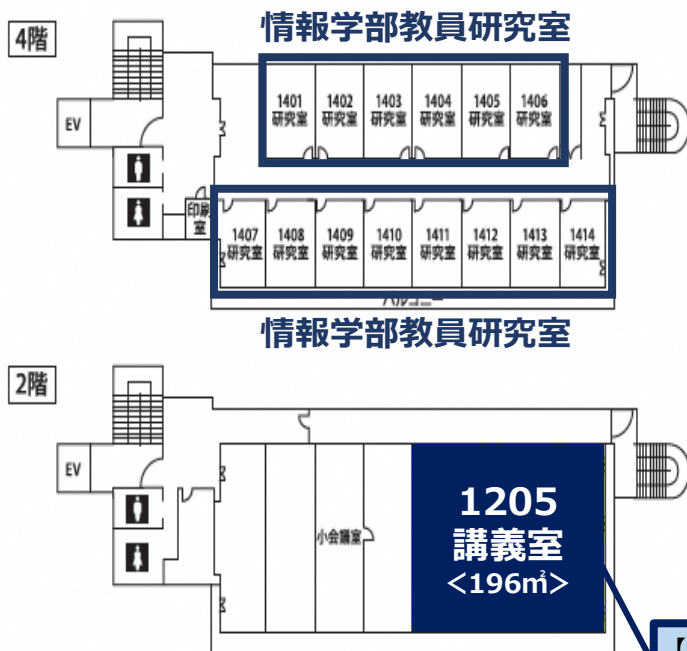
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、ソーシャルディスタンス確保に必要な教室・研究スペースの確保が必要となる。
- ・情報学部のゼミでは、地域の企業との連携による共同研究や受託事業の増加による共用スペースや研究活動スペースの整備が必要となる。
- ・今後の学年進行により、情報学部のPBLにおいて、ゼミ室のシェアが困難となることが予測される。
- ・2023年度の教室稼働予測では、収容定員100人超の教室の稼働率が著しく高くなり、時間割が組めない状況が予測されることから同規模の講義室の確保が必要となる。

学部における施設整備概要

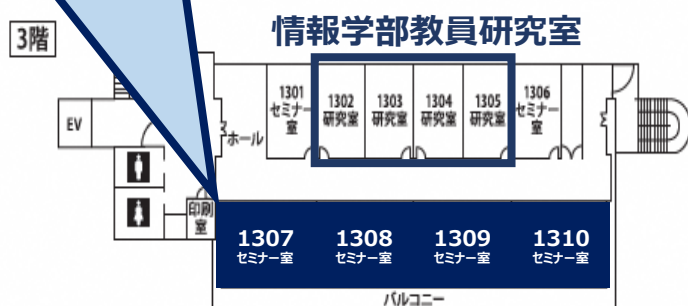
用途	部屋数	想定される延床面積
学部の講義室	1~2室	140㎡/室
演習室	12室	40㎡/室

現施設の配置図①

■ 1号館



情報学部ゼミ室【1教員1室：約47㎡】
⇒ 4教員がゼミ使用【機材固定】

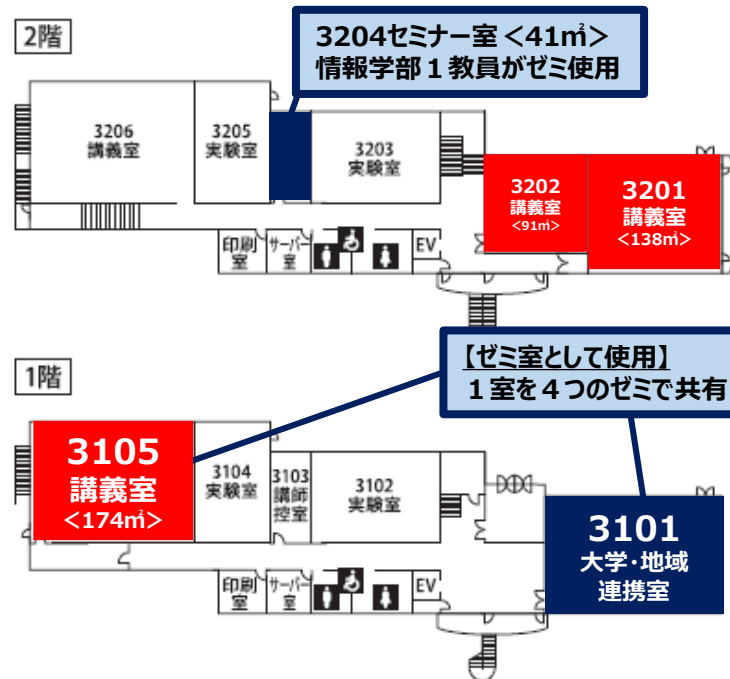


【ゼミ室として使用】
1室を4つのゼミで共有

情報学部ゼミ室の状況

1号館 1205講義室 | 3号館 3105講義室、3101大学・地域連携室
情報学部ゼミ室の不足により、座学等で使用する3室をゼミスペースとして代用
⇒結果、講義室等の稼働率が上昇し、時間割編成ができない状況が発生。
●情報学部教員 17人（2023年度時点）
●現施設のゼミ室 1307～1310・3204セミナー室の5室。
●ゼミ室の考え方 情報系学部は、機材を設置するため、1人1室のゼミ室が必要。

■ 3号館

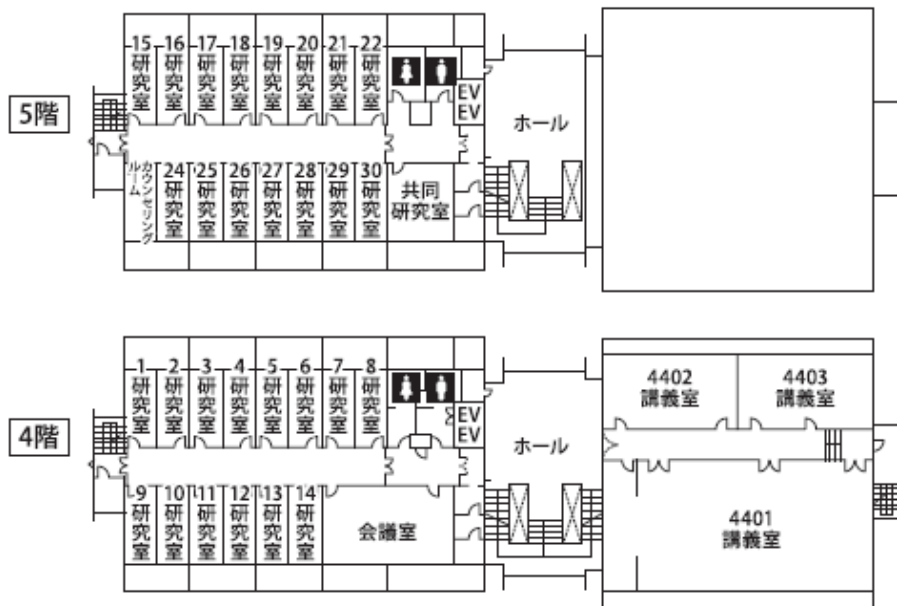


講義室の状況

3号館 3105講義室、3201・3202講義室
2023年度の教室稼働予測では、著しく高い稼働率となっている。
●3105講義室（収容108人）稼働率92%
●3201・3202講義室（収容110人）稼働率88%

施設の配置図②

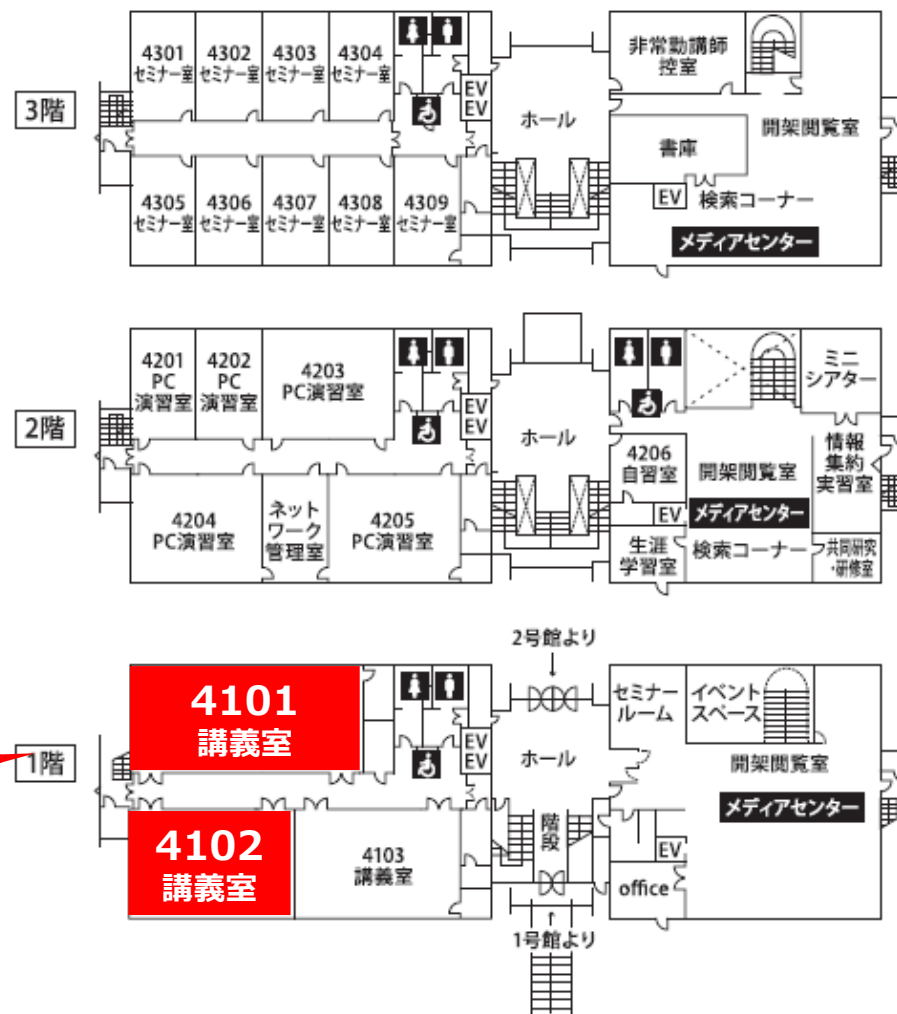
4号館



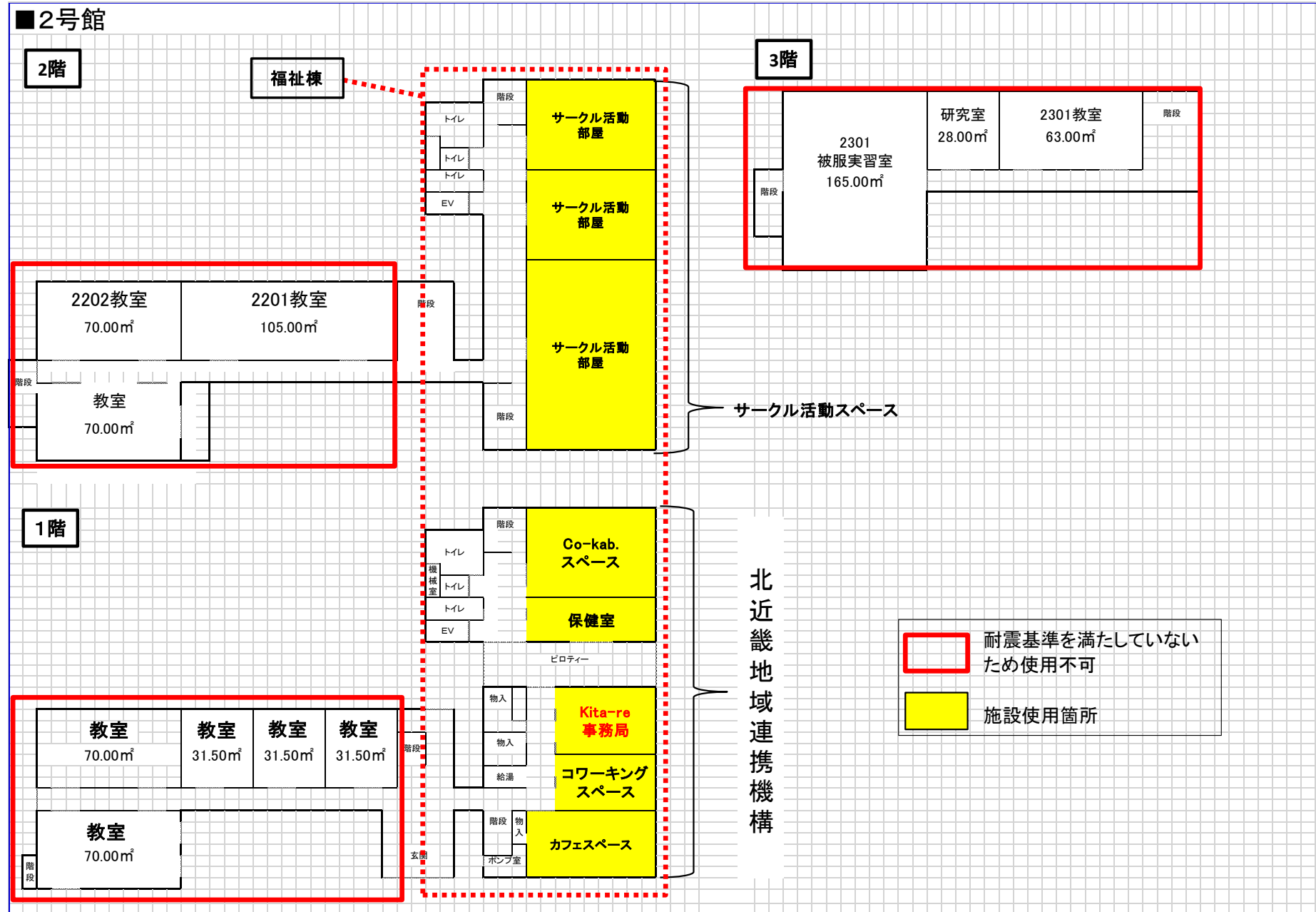
4号館 4101講義室、4102講義室

2023年度の教室稼働予測では、著しく高い稼働率となっている。

- 4101 講義室（収容209人） 稼働率88%
- 4102 講義室（収容143人） 稼働率80%



現施設の配置図③



2-3 大学院の設置等にかかるキャンパス整備の必要性

(3) その他の施設の充実①

- 体育館は平成29年の認証評価で努力課題とされた事項であり、その後整備がなされていない重要課題である。
⇒授業での利用は週1回程度だが、学生の豊かな課外活動機会の保障の観点から必要性は高い。現状は、隣接する高等学校の体育館や近隣の体育館等を借用している。（下表参照）
- 食堂、課外活動スペース、多目的利用スペース、交流・休憩スペース等の整備
⇒学生のサークル活動施設として福祉棟を整備したが、十分な機能が確保できていない。学生やサークル活動状況に応じたスペースの整備が必要である。

施設整備により充実が必要な教室等以外の施設
・ 体育館、食堂・課外活動スペース・多目的利用スペース等、運営施設

公認サークルによる体育館施設使用状況（2020年度） ※後期期間

利用区分等		使用施設	年間使用回数		
1	バスケットボール	近隣中学校体育館	毎週日曜日（後期）	19:30-21:30	約24回
2	サッカー（フットサル）	近隣小学校グラウンド	毎週水曜日（9月～12月）	17:00-19:00	約12回
3	バドミントン	市民体育館	毎週月曜日（後期）	18:00-21:00	約24回
4	バレーボール	市民体育館	毎週日曜（後期）	18:00-21:00	約24回
5	子ども食堂	近隣高等学校体育館	毎月1回（後期）	18:00-21:00	約6回
6	卓球	市民体育館	毎週1回（後期）	18:00-20:00	約24回
7	授業	近隣高等学校体育館	毎週水曜日（2限）	10:30-12:00	約24回

2-4 大学院の設置等にかかるキャンパス整備の必要性

(3) その他の施設の充実②

● 駐車場の整備

⇒教育関係者や共同研究等での利用者の利便性向上のため必要である。

現状：来客用駐車場（本学所有）・・・1号館10台、2号館5台
教職員・学生・来客用駐車場・・・隣接する高等学校との協定により使用

● 大学院設置や学部の教育研究の充実に伴い、教育関係者や共同研究等での来学者の増加、北近畿からの入学者を想定した学生用駐車場の整備が必要である。

⇒駐車場整備区画 約100台分（校舎の近接地）

駐車場保有数他大学との比較

	大学名	駐車場用途	台数	学生数		備考
1	福知山公立大学	職員・学生・一般来客用	92台	学部生	619人	内、学生使用数10台（自宅から5km以上）
		一般来客用	10台			
		公用車用	4台			
		新規整備	100台			
2	会津大学	職員・学生・一般来客用	400台	学部生	1,070人	
		職員・一般来客用	80台	院生博士前期	146人	
		教員用	20台	院生博士後期	60人	
3	公立はこだて未来大学	職員・学生・一般来客用	390台	学部生	1,069人	
		一般来客用	55台			
		身障者用	6台			

3 将来計画における施設整備の優先順位の検討

①大学院施設

②学部施設

③その他施設の充実

- ・体育館

- ・食堂、課外活動・多目的利用スペース等の本格整備

- ・駐車場

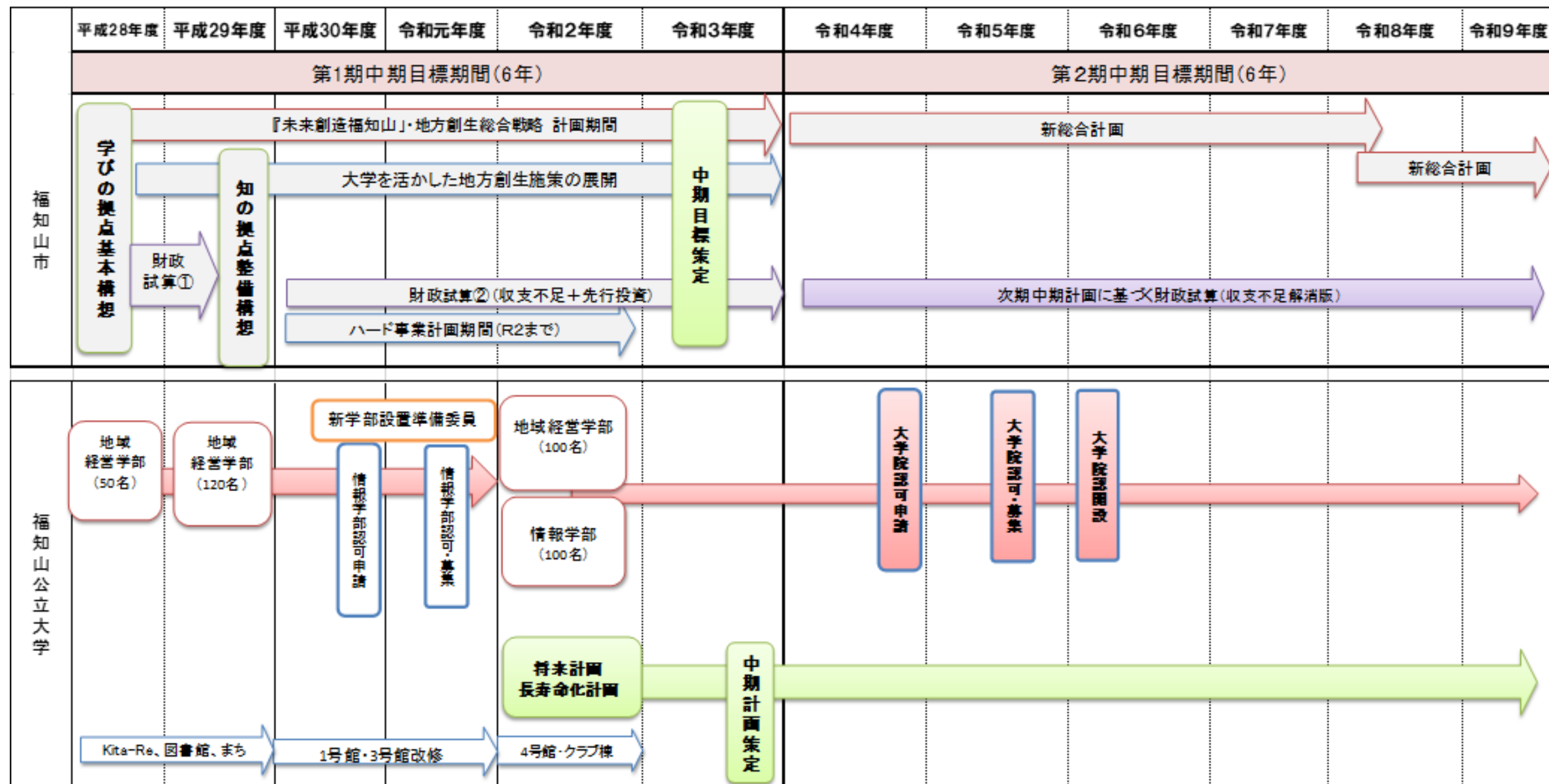
- ・ **2024年度の地域情報学大学院設置を最優先事項として取り組む。**

（学部生の進路確保、本学情報学の発展を通じての北近畿地域への貢献のため）

- ・あわせてコロナ共生社会での学部教育におけるソーシャルディスタンス確保等も喫緊の課題であり、機動的な対応が求められる。

- ・開学以来の課題であるその他施設の充実も上記とあわせて計画的に推進する。

年次スケジュール



<参考> 他大学との施設規模比較について

施設規模の比較対象：公立はこだて未来大学（情報系）、会津大学（情報系）、奈良県立大学（社会科学系）

大学名	講義室・演習室・実験室等の面積（㎡）※1	学生1人当たり講義室・演習室・実験室等の面積（㎡）	教員1人当たりの研究室面積（㎡）※2
公立はこだて未来大学（情報系）	12,333	11.3	36.2
会津大学（情報系）	8,489	6.9	88.1
本学（現状の面積／2023年度＝情報学部完成年次）①	3,355	4.1	26.4
本学（大学院施設整備（教室840㎡、研究室240㎡）／2025年度＝大学院修士完成年次）②	4,195	4.9	29.2
本学（大学院・学部施設（教室620㎡）整備／2025年度＝大学院修士完成年次）③	4,815	5.6	29.2
情報系大学平均（公立はこだて未来大学・会津大学）④	10,411	9.1	62.1
【参考】奈良県立大学（社会科学系）⑤	2,428	4.1	18.0
現状の面積と情報系大学平均の比較 ①/④		45%	43%
大学院施設整備後と情報系大学平均の比較 ②/④		54%	47%
大学院・学部施設整備後と情報系大学平均の比較 ③/④		62%	47%
大学院・学部施設整備後と情報系・社会科学系の2学部の場合の大学平均の比較 ③/{(④+⑤)/2}		85%	73%

- 現行施設は、情報系学部を有する公立大学の教育研究施設と比較すると、学生1人当たり講義室・演習室・実験実習室面積で5.0㎡少なく、教員1人あたり研究室面積でも35.7㎡少ない結果となっている。
- 本学が社会科学系学部と情報系学部の構成であることを考慮しても、大学院・学部の施設整備後の面積は、社会科学系学部と情報系学部平均を下回る結果となっている。（学生1人当たり講義室・演習室・実験実習室面積85%、教員1人あたり研究室面積73%）